招聘講演

「多文化時代における言葉とコミュニケーション」

(Language and Communication in a Multicultural Era)

立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科教授
鳥飼玖美子 TORIKAI Kumiko, Ph.D

世界がグローバル化するに伴いコミュニケーションも画一化されるという説があるが、そうであろうか。英語が世界の共通語として機能していることは事実であるが、国境を越えて人や情報が行きかうグローバリゼーションは、各地で多言語・多文化状況をも生み出している。21世紀は、地球のボーダレス化と、それに伴う文化の多様性で特徴づけられるとも言える。

本講演では、そのような多文化時代における言語とコミュニケーションの問題を、EUの事例を参考に考えてみたい。具体的には、多言語主義(multilingualism)の理念に基づいた通訳翻訳の役割、理念を具現化する複言語主義(plurilingualism)という言語政策、それを支えるCEFR(Common European Framework of Reference for Languages 欧州言語共通参照枠)という教育施策、多文化共生の核をなす異文化力(intercultural competence)という概念などを取り上げ、多様性をコミュニケーションの障害としての存在から相互理解を生む源へ転換させるために、何がなされなければならないか、日本の状況に照らし考察する。

参考文献

- 吉島茂・大橋理枝（他）訳（2004）『外国語教育 II 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版.[原著:Council of Europe (2002).*Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge University Press.]
- Byram, M., Nichols, A. & Stevens, D. (Eds.).(2001). *Developing intercultural competence in practice*. Clevedon, Buffalo, Toronto, Sydney: Multilingual Matters.
- Byram, M.(Ed.).(2003). *Intercultural competence*. Strasbourg: Council of Europe.